

2020年4月17日

厚生労働大臣 加藤勝信 殿

## G20 保健大臣会合に向けたセーブ・ザ・チルドレンの要望書

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大予防に各国が立ち向かう中、国内での対策の拡充に加え、世界の最貧国が COVID-19 感染拡大に対応できるよう支援を提供することが喫緊で求められています。感染防止と封じ込めの行動が遅れば、南アジアとサハラ以南アフリカで今後 300 万を超える人々の命が奪われることが見込まれます<sup>1</sup>。セーブ・ザ・チルドレンは、世界の子どもたちにとっての大惨事を回避するために、5つのアクション—感染症の封じ込めと鎮静化、国際的な資金拠出、各家庭への生活補助、教育・学びの維持、子どもたちの安全と保護—を国際社会に呼びかけています。

ご認識の通り、COVID-19 は国際的な協調が求められる世界的な脅威です。私たちは、G20 各国首脳 COVID-19 保健医療対応に関する行動計画におけるリーダーシップとコミットメントを歓迎しています。4月19日・20日の G20 保健大臣会合において、国際保健セクターおよび社会に COVID-19 がもたらす影響への対応を協議されるにあたり、以下の緊急行動を優先的に実施頂きますよう、お願いいたします：

- **COVID-19 の感染拡大を抑制し、最悪の影響を阻止するため、各国主導の対策を支援する国際的な行動計画に向けた資金拠出と調整、および計画策定と実施を後押ししてください。** この計画には、すべての国が必要とする検査体制の強化、防護具や医薬品の確保はもちろんのこと、保健医療や栄養改善のシステム（特にプライマリ・ヘルスケア）、最前線の医療従事者や精神保健・心理社会的支援、保健設備における水・衛生のインフラ整備、それらを強化するための資金確保のための国際的な調整が伴う必要があります。
- **5月4日に EU とその他パートナーが COVID-19 のワクチン開発と供給に関する誓約会議を開催します。世界的に少なくとも 80 億米ドルの資金が COVID-19 に対する緊急の保健医療対策支援のために必要であると試算されており、日本政府にも国際的な資金拠出を求めます。** 世界保健機関（WHO）および多国間の基金を通じて、最貧国の脆弱な保健システムが COVID-19 に対応できるよう支援する必要があります。WHO は COVID-19 の世界的な大流行に対応するためには不可欠な機関であり、この国際保健上の危機対応を牽引するために適切な資金拠出と協力が求められています。その一方で、GAVI アライアンスの増資会合および東京栄養サミットを含む、保健システムと子どもの命を救うための幅広い投資を優先して継続してください。

<sup>1</sup> Imperial College COVID-19 Response Team による 3月26日付報告書より：

<https://www.imperial.ac.uk/media/imperial-college/medicine/sph/ide/gida-fellowships/Imperial-College-COVID19-Global-Impact-26-03-2020.pdf>

- **低所得国、紛争など脆弱な状況下で対応能力が不足している国々の保健医療システム強化と医療従事者の人材・能力を強化するために、これらの国々への投資と支援を優先してください。**これは COVID-19 対策を進めながら、母親と子どもの命を救う基礎的な保健・栄養サービスを継続して提供し、他の疾患の感染拡大を防ぐためにも不可欠です。
- **公的および民間の保健・栄養サービスの利用者負担につき、少なくとも COVID-19 の危機が発生している期間中、脆弱な立場に置かれた子どもとその家族に対しては利用者負担を撤廃する取り組みを支持し、支援を行ってください。**さらに、保健・栄養サービスへのアクセスを確保するためのその他の財政的および非財政的な障壁を取り除くよう支援してください。
- **COVID-19 のワクチンや治療薬が新たに開発された段階で、衡平なアクセスを保障するための十分な規定を策定してください。**特に、資金提供を含めた支援をする際には、必要としているすべての人々がこれらワクチンや治療薬にアクセスできるよう、公的な支援、アクセシビリティ、購入価格の条項に公共性を重視した措置を設け、非独占的ライセンスの導入などを条件としてください。

COVID-19 により、世界中ですでに保健システムに甚大な負荷がかかっています。この中でも特に最貧国の保健システムは崩壊する可能性が高く、他の感染症の急激な拡大につながるリスクもあります。日本を含め G20 各国が WHO への強力な支援を含む国際計画の資金ギャップに対する拠出を優先し、COVID-19 対応の国際的な協調を通じて最貧国への支援にリーダーシップを果たして頂くことが、かつてないほど求められています。日本は今までも、世界で特に脆弱性の高い国への保健支援の先陣を切ってきました。COVID-19 対策についても、引き続きのリーダーシップを求めます。

以上、ご賢察の程よろしくお願い申し上げます。

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 専務理事・事務局長  
三好 集

【本提言に関するお問い合わせ】  
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン アドボカシー室  
東京都千代田区内神田 2-8-4 山田ビル 4F Email: [japan.advocacy@savethechildren.org](mailto:japan.advocacy@savethechildren.org)